

様式第 3

会 議 録

会 議 名	第 2 回野田市鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会 会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	1 鈴木貫太郎記念館再建基本計画案について（公開） 2 その他（公開）
日 時	令和 7 年 6 月 1 1 日（水） 午後 2 時から午後 3 時 1 0 分まで
場 所	市役所低層棟 4 階 委員会室
出 席 者 氏 名	委員 菅根幸裕（議長）、下津谷達男、四柳隆、山本和也、澤田 修、岩岡竜夫、筑井正
	職務上の意見等を伺うため出席を依頼した職員 染谷篤（教育長）、宮崎等（市史編さん担当）
	事務局 鈴木有（市長）、今村繁（副市長）、金子正道（市政推進 室長）、野本勝大（市政推進室主任主査）、笹川知樹（市 政推進室主任主事）
	関係課 生嶋浩幸（教育次長(兼)生涯学習部長）、峯崎光春（生涯 学習課長）、服部薫（都市計画課長）、大熊佐智子（生涯 学習課副主幹(兼)文化財係長）
欠 席 委 員 氏 名	櫻井良樹
傍 聴 者	3 名（うち報道機関 1 名）
議 事	第 2 回鈴木貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会 の会議結果（概要）は、次のとおり。
市政推進室長	1 開会 委員の交代について報告（千葉県人事異動により 4 月 1 日付けで千葉県立中央博物館長が四柳隆氏となり、新たに

四柳委員 市政推進室長	委嘱させていただいたことを報告）し、挨拶を依頼 挨拶 報道機関から取材の申込みがあり、取材の許可について 委員に諮る。 異議無し。 報道機関の取材を許可し、入室を案内する。 会議録作成のため録音機の使用及び会議の公開並びに傍 聴について説明する。 傍聴希望があり、入室いただいていることを報告 また、会議の結果及び会議録の公開について、説明す る。
市長 市政推進室長 議長	2 市長挨拶 議事の進行について、議長に依頼 3 議事 議題1「鈴木貫太郎記念館再建基本計画案について」 事務局に説明を求める。
市政推進室主任主査	1章から3章の事業活動計画、6章の「施設整備計画」 について案を作成したこと、4章の「展示計画」、5章の 「集客・交流計画」、7章の「管理運営計画」、8章の「 工程計画」は次回以降の会議となることを説明 第1章では、施設、人員体制の両面で不十分であり、現 在の施設環境として、雨漏りや耐震強度不足であること、 収蔵庫がなく、温湿度管理をする設備がないなど、展示環 境に問題があること、展示室以外に部屋がないことから、 学習支援が行えないことなどが課題となっていることを説 明 こういった課題を踏まえ再建の方向性として、展示や収 集保存に必要な設備を整えること、繰り返したくさんの人

が訪れる魅力あふれる企画機能を備え、登録博物館として求められる調査、研究、研修等の機能を満たした新記念館とすることを説明

また、再建の前提条件として、有利な補助金の活用を進めているほか、基金を設け指定寄附金を募っているが、本市の財政状況として社会保障関係費の増加が見込まれるほか、普通建設事業費についても増加が見込まれ、物価高騰、賃金上昇等による事業費の増加も見込まれることから、市の財政規模に見合ったものとし、総事業費の上限を基本的に 20 億円とすることを説明

記念館の再建にあたっては、市民にも浸透し、分かり易い指針、方向性を示すべきと考え、事務局案として、2 案の理念案を例示していることを説明

基本理念をもとに事業活動方針を説明し、想定される利用者層を説明

実施していく事業について、活動の全体像をいくつかの基本的な活動ごとに分類した上で、実施する事業の全体像をまとめたことを説明

各事業ごとに、具体的な活動や関連する諸室について説明

施設整備計画については、基本方針として堅牢で、防災対策に配慮した建築とし、気軽に利用できる開かれた空間とし、地域の中核施設として積極的に活用でき、あらゆる人が利用できるようユニバーサルデザインに配慮した上で、環境負荷の低い施設で、メンテナンス性に考慮した施設を再建することを説明

敷地の概要や法的な基本事項について説明

自然災害の想定としては、避難行動マニュアルに定め、避難行動タイムラインを作成し、収蔵品等の安全性を確保することを説明

	敷地内の史跡等については、敷地内での移設も含め保存を図っていくことを説明 諸室については、事業活動等を受けた、各室の面積案を説明 また、民営ではなく、自治体が設立している個人を顕彰した博物館の諸室について比較できるよう、大原幽学記念館等の3館の面積を記載していることを説明 最後に、施設の構成をイメージしやすいよう、来館者、資料、職員の3つの動線を、機能性及び文化財を有害生物等から管理するためのゾーニングの観点からまとめていることを説明
議長	ではまず、理念について、意見をいただければと思う。いかがか。
	私の意見として、郷土の偉人として鈴木貫太郎に特化しているのか、いないのかというところに2案の違いがある。 また、文化交流を発信していくという手法がない、つまり文化を発信していく交流していく拠点とか、そういうふうに言い換えた方が良い。 考え方としては、A案はどちらかというところと広く、B案の方が鈴木貫太郎に特化した感じの案になっております。 皆さんいかがでしょうか。
岩岡委員	将来的に、この理念が、博物館の名称に関係してくるのか。
市政推進室長	今回、基本計画を作る上で、先ほど説明申し上げた通り、市民の方を含め、全国的に、この記念館を再建していくというキャッチフレーズ、親しんでもらえるよう、理念というものをまず示させていただくもので、理念を将来的にどうこうというのは考えていない。 新築しても理念は施設の名称に関係なく、あくまで仮称

	鈴木貫太郎記念館というものを再建していく上での方向性をこの中で見出していきたいもの。
議長	他にいかがか。事務局、これは今日決めていかなければならないものか。
市政推進室長	本日、どうしても決めなくてはいけないというものではないため、これは引き続き各専門委員の方に持ち帰っていただき、次回の中で決めていただくことで問題ない。
議長	はい、ありがとうございます。 では、今回は他にも質疑等を出していきたい。 いかがか。
岩岡委員	鈴木貫太郎の功績を伝える、そしてさらにというか、その地域の交流、文化交流の場所にもなる。そういうものを目指すんだと。そういうふうにも考えてもいいものか。
議長	大原幽学にしても、その他にしても、それぞれ個人を顕彰している。一つ懸案となるのは、野田市にはもう既に博物館があるが、その辺のすみ分けはどのようにするのか。
四柳委員	鈴木貫太郎という名前を冠するということ自体は、私も入れた方が良く考える。それが中心になるのは間違いない。その功績の中の一つとして、一番大きいのは多分平和という、戦争終結させたという部分だと考える。 関宿地区での、地元への貢献というものも次の段階ではあるが、今、イスラエルやロシアでの紛争などの中で、平和教育的な部分というのも、前面に押し出していくと特徴が出るのかと考える。
議長	国際博物館会議という中で、課題の一つとして紛争への取組というものを考えていこうということが案にあった。そういった取組もある。参考までに。 他にいかがか。
市政推進室長	今委員の中から色々なキーワードをいただいたところであり、事務局の方で、今の御意見をもとに、事務局の方で

議長	案を作らせていただき、次回提案したい。
	一つ確認だが、これは博物館のそのものの指標になっていくのか。 記念館運営の指標に繋がっていくものとして考えてよろしいのか。
市政推進室長 議長	お見込みのとおり。 では、全体を通して何かご質問等ございましたら願います。 具体的な面積案などいろいろ出ている。 その他、資金の問題もある。一つのポイントは、登録博物館、博物館法における色々な規定を満たす必要がある。
下津谷委員	鈴木家のことを考えた場合、弟の孝雄さんのことをこれまで触れてこなかった。実相寺にお墓もある。ここについても触れる必要がある。そして、ご両親についても、触れていく必要が出てくる。 さらに、堺市の関宿藩領についても、どうしても避けては通れないだろうと思う。
議長 岩岡委員	他に。 現時点では、具体的過ぎかもしれないが、工事の段取り、スケジュールというのは、既存の建物をまず更地にしてからか、あるいは今建築物がない場所に新築してその後壊すものか。 色々考え方もあると思うが、壊して更地にしてということその分時間がかかる。 また、敷地の問題もあり、使っていない土地の部分で建設できるかという問題もある。それから、どういうふうにアプローチするのかということもある。 この変形した敷地の中で進めていくのか、あるいはもう少し大きくなるのかなど、そういったことも整理が必要

市政推進室長	既存の施設については、コンクリートの耐震強度不足で建物として補強も難しいだろうという判断があり、これについては事前に取り壊しさせていただければなと現時点では考えている。 さらに、東側の土地、ここに今農協の施設が建っているが、9月末までに解体をするということで話が進んでおり、今回の貫太郎記念館の敷地としては、ここの土地も含めて考えていきたい。
市長	集乳所側の土地と現記念館の土地は高低差があり、この高低差をどのように活用するかというのも含めて、検討しなくてはならない。 できれば、今建物があるところを壊し、更地にして、そこを基準に建築する。 というのも、集乳所側は盛り土を相当程度しなければならぬということを考え、その辺も含めて最初の計画を立て、高さの調整等、造成工事をやった上で、建設工事ということかと思う。
議長	他にいかがか。 今博物館法で問題になっている収蔵庫の話がある。博物館というのはある意味では、収集、保存、研究、展示という活動が中心になるが、博物館は物を捨てるということができない。そのため収蔵庫をある程度、どんな形でもいいから確保しておくことが必要 今回の案は、大原幽学や、そういうところに比べて多少広いが、かなり無茶なことをしており、一応申し訳ないが、大原幽学の場合は旭市だが、旭市そのものに博物館はここしかないということで、郷土資料館的な意味合いをずいぶん持たされている。 そのようなことから、さっきの理念にも関わってくるが、野田市の場合は郷土博物館があり、そのことは心配な

	い。 ある程度鈴木貫太郎に関係したもので集約していくんだから、この面積で大丈夫じゃないかというようなことでよろしいか。
市長	議長の説明のように、本市は郷土博物館があり、貫太郎記念館については貫太郎に特化したものを展示、収蔵等するという事で考えている。
岩岡委員	そういったことであれば、この面積で支障ないかと。 野田市郷土博物館は、旧茂木邸の隣接の所かと思う。何度か行ったことがあるが、あちらには関宿関係の資料も全てあるのか。書類などの資料が多いと思ったが、野田市史の資料としては、基本的には全て所蔵されているのか。
市政推進室主任主事	郷土博物館につきましては、野田市に関するもの全てを受け入れている。 展示については、2階の常設展は、醤油に特化した展示をされていたが、展示のリニューアルもあり、野田市内全体を見られるような構成となっている。
議長	一つは先ほど中央博物館長さんがおっしゃったように、平和。埼玉県には平和資料館がある。 千葉県では初めてとなる。鈴木貫太郎の実績にしたがって、平和というものを発信する。 理念の中に、平和というものを入れた方が特色が出る。そのようにも考えられる。 貫太郎が亡くなる時に永遠の平和という言葉を発したということもあり、平和については、しっかりとした形で伝えていければと思う。 諸室の構成には、かなり具体的な数値を出しているが、まだ、敷地だけではイメージがつかないと思う。いかがか。 博物館法に則った登録博物館ということは、データベー

	スに、きちんとした目録がなければ登録博物館にはならない。 それから博物館法3条3項の努力目標に文化観光とあり、つまり地域にこの博物館がいかに寄与するか。地域の発展にいかに寄与するか、その辺を明確にしないと通らない。 そのため、その点も基本計画の中で少し力を入れていただければと思う。 他に、何かないか。
岩岡委員	この先というのはどういう形で進めていくのか。もっと具体的なプランニングが出てくるのか。そこからまた検討していくというような、そういう流れか。
市政推進室長	今回、基本計画の策定と同時に、今年度中に建築の基本設計というものを進めていきたい。基本設計については、建物の設計を考える中で、事務局で検討させていただき、今後委員会の中でお諮りするということは考えていない。 今回、施設整備計画、事務局案を提示したが、次回以降も展示計画など、建物の検討と直結することから、意見を踏まえて、市として建物をどうしたいというのを決めさせていただければ、というふうに考えている。
議長	基本計画策定と同時に、基本設計もされているということか。
市政推進室長	今、契約は事業者と締結させていただいているが、当然基本設計についてはまだ着手していない。あくまでもこの委員会議で、方向性を見い出した後、着手していきたいと考えている。
議長	基本設計について、それはそれでまた委員会があるということか。
市政推進室長	建物の設計について委員にお諮りするかというのは、今のところ決めていない。

議長	ということで、この会議は基本計画についての議論になるので、理念や事業内容など、この会議で検討していきたい。
市政推進室長	その上で、詳細設計はいつ着手していくのか。 詳細設計については、都市再生整備計画というものを市で策定し、貫太郎記念館の再建に当たる設計から、道路の整備など全ての計画を盛り込んだ、そういった計画書を作っており、その中で実施する事業として、詳細設計は来年度、令和8年度に行いたいという計画を作成していきたいと考えている。
議長 岩岡委員	大変忙しく作られるということで。大変だと思う。 資料の保存について、非常に大切なものはどういうふうに保管を考えていくのか。例えば関宿は、かなり低地となっている。何か起きたときに、資料をどういうふうに管理できるかということで。ある程度人が来ても大丈夫なような形にするのか、あるいはそれは大前提として対応を考えるのか。 ある程度のレベルはどこにするのかということもある。どういう形で保管するのがいいのかという検討が割と中心になるのではないかと思います。 地域に開かれたとなると、割と開いた状態のオープンな博物館というのがある。ちゃんと守る形の博物館と、開かれた博物館というのは矛盾すると思うが、それをうまく融合していくということ
市政推進室長	先の説明のとおり、計画地についてはハザードエリアで、浸水想定が5メートルから10メートル程度、河川が氾濫した際には、そういった浸水リスクがあるというところになる。当然建物は堅牢に作らざるを得ないというふうに考えており、その中で、来館者等や収蔵品をどう守るかというのが、水平避難がいいのか、垂直避難がいいのか、

	いずれかの対応をミックスした形になるのかということも含め、これから検討していきたいと考えている。
議長	一つ確実なのは登録博物館ということ。博物館法に則ったものとするということだが、もう一つ懸念しているのは、博物館の望ましい基準というのがまだ文化庁の方で策定されていない。 これが近日策定されると、また違う話が出てくるので、新たな変更がなされる前に進める方がいい。
下津谷委員	議長とはちょっと違った面で、自然災害は防ぎようがなく、対応が必要だが 1000 年に一度という、そういう自然災害を想定する必要があると。 かつて、江戸時代あたりから明治大正あたりまで、水害が関宿ではあったはずだが、どれくらいの水害となっているか。何か調べてあるか。
筑井委員	関宿で水害があった記録はない。 もちろん江戸時代から以前の可能性はあるが、栗橋において、利根川は渡良瀬川と合流し、関宿へ来て、江戸川と分流する。理屈からいって二つの川が一つになり、また、二つの川に分かれることから、合流地点の栗橋が切れたりという歴史はある。関宿の地点での堤防が切れるということは非常に確率的にも低いということで、私の記憶ではもちろん利根川とか江戸川が改修する以前となる。 江戸時代以降のように河川が整備されてから、関宿で水害があったというのは、内水氾濫はあるが、利根川と江戸川が決壊したということは記憶にない。
市長	昭和 22 年のカスリーン台風、これは江戸川と利根川のいくつかの場所で破堤している。 国交省が丁寧に作ってくれている浸水ナビでは、野田は三方を川に囲まれて、川の堤防を 70 か所を切った場合、これだけ浸水しますというのを重ね合わせていることか

議長

ら、多くの地域が浸水地域になっている。

一か所ずつの破堤であれば、そこまでの浸水にはならない。

ただし、これを見捨てることはできないので、しっかりと形を想定をしながら、建築の設計は必要

水害その他の懸念もあるということ

事業活動方針、施設整備計画、事業活動計画、それぞれの内容は抽象的な表現もあり、これはいいとか悪いとかそういうことはないと思う。

展開する事業の中で、ウェブサイトとか企画展などがある。

博物館の評価をどうするかという問題やそのあとのランニングの問題、そういったことも考えて、継続できるような基本計画にしていなければならないと思う。

岩岡委員

今日、午前に関宿城博物館に行ってきたが、展示は充実しており、2時間ほどいたが、関宿の歴史というか利根川の歴史があり、稀な博物館だと思う。

そういう、近くの博物館等と連携しながら、何か企画していくと良い。

東京から遠いが、高速道路で来ると割と近い。関東平野の真ん中ということで、価値ある、楽しいものになるのではないかな。

いずれにしても、記念館だけではなく、境町であったり、五霞町だったりという、旧関宿藩というところも含めて考えていけたら。

市長

最初は観光でいいと思う。来てもらうきっかけを発信していけたら。

関宿城博物館には、はとバスツアーが期間限定で来ていた経緯がある。東京からお客様を呼べるんだと、一帯で考えて人を呼ぶことも可能だと。

議長	また、ランニングコストはどうなんだというのは、しっかりした形で考えていかないと、入館料はなかなか難しいことから、最初に検討しておく必要がある。 博物館法には、博物館と地域との連携ということも登録要件に入っているので、非常に大事なことだと思う。 それでは質問がなければ、基本計画案については終わらせていただく。
市政推進室主任主査	次にその他として、事務局に説明をお願いします。 その他として、次回以降の会議について説明する。 次回以降の会議の議題とすることとした項目について、本日の会議と同様に具体的な案を作成し、お示しさせていただきます。 8月上旬をめどに調整させていただく。 また、現地視察をしたいということで意見を頂いた。 類似施設等の視察も含め、一日の日程で回れるよう検討させていただき、日程調整をさせていただく。
議長 市史編さん担当	現地視察は早い方がいい。見ないで話をしてもしょうがない。 他に御意見、御質問は。 次回以降、展示計画等を事務局がまとめるかと思うが、先ほど意見の中でですね、貫太郎の関係者のこと等々についても扱っていくというような話が出ていたかと思うが、奥様のタカについて、もっと評価をされていていいと私は考えている。 例えば、今現在の敷地の中で、遺跡等という図の中で戦没者の慰霊と慰霊碑というのがあるが、実際ここには五輪塔が立っている。 貫太郎の19回忌に、核戦争の戦没者あるいは原爆それから学徒出陣等に関する人たちを慰霊するために建てられたもの。

議長	先ほど平和教育という話もあったが、一番近くにいて、それをご覧になっていたタカさんが、一番のその継承者。こういった視点での、展示等についても触れていただければと考えている。 ありがとうございます。
市政推進室長	確かに貫太郎は終戦後、少しして亡くなりますが、タカさんはずっと続けていらっしゃった訳で、展示計画を作ってもらえれば。 それでは議事を終了とする。 以上をもちまして、第2回野田市貫太郎記念館再建基本計画策定専門委員会議を閉会させていただく。